

第 1 回館山市議会定例会会議録  
(第 5 号)



議案第 8 号 昭和 59 年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

議案第 9 号 昭和 59 年度館山市水道事業特別会計予算

議案第 10 号 昭和 59 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前 10 時 05 分

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数 24 名、これより第 1 回市議定例会第 5 日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 1、議案第 3 号乃至議案第 10 号昭和 59 年度館山市一般会計及び特別会計予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

20 番議員石井武敏君。御登壇願います。

（20 番議員石井武敏君登壇）

○20 番（石井武敏君） 御質問申し上げます。

昭和 59 年度の一般会計予算の編成は、歳入歳出予算の総額は 95 億 8182 万円で、前年度当初予算に対しましては 6 億 7155 万余円の減、マイナス 6.5% というようになっております。こうした減額予算の中で考えられますことは、こうした狭い予算の中で住民の意思をどのように反映させていくかということが大事だということのように考えるわけであります。特に、住民の要望をいかに選択していくかということ、その厳しい選択を迫られた予算であるということのように考えます。特に、福祉の関係の予算につきましては、住民の生活と直接、密接なつながりを持つものが多いわけですので、こうした種類の予算につきましては後退をしないような配慮、施策が必要であるということには私は考えるものでありますが、こう

した考え方を基本にいたしまして御質問を申し上げていきたいというように考えます。

質問の内容は、すでに通告してございますので、簡潔な御答弁でよろしくお願ひしたいと思いますが、質問の順序は昭和59年度の予算説明資料に基づきまして質問を進めてまいりたいと考えます。

初めに、10ページでございますが、2款総務費の中に交通安全施設の整備事業、また防犯灯新設事業等と載っております。この事業の内容をいま少し詳しく説明を補足していただきたいというのが私の質問の趣旨でございます。

といいますのは、御承知のようにこの施策は交通災害から人命を守るといふきわめて大事な施策であるというように私は受け止めておりますので、また最近非常に車の量も増えまして、事故の発生率も増えまして、そうしたことを背景にしまして考えるわけでございますが、こうした施設の整備というものは危険な個所から順次適切な処置を施していくということが必要であるというように私は考えるものでありますが、もう少し具体的な説明をいただきたいというように考えるわけであります。

また、合わせまして、かねがね私も関心を持っております市民を交通災害から守るといふ交通安全教育につきまして、何らかの推進方があるであろうと思われまゝ。また59年度もそういった推進があると思うんですが、その推進方もこの予算の質疑に合わせましてお答えをいただきたいというふうに考えます。

その次に、防犯灯の設置の事業でございますが、これに関しましては私も機会あるごとに予算が少ないのではないかと、住民の要望に対しまして非常に毎年の予算の計上の額が少な過ぎるのではないかとということを経験を繰り返してまいりましたが、今回の予算を見てもかなりの増額になってきておるわけでございます。この増額の予算を見ますと、これでかなり住民の要望というものが潤っていく、苦情が解消していくというように私は考えられるわけでありますので大変にいい傾向だと思ひますが、なお今年度以降との計画のかかわり合いがありますので、もう少し内容を明らかにしていただきたいというように考えます。

次に、同じページの3款の民生費でございますが、ここには民生費の中

に児童遊園等の整備事業費が載っております。これは説明書によりますと、児童遊園遊具購入——新宿、相浜児童遊園、機械器具購入——ミニバスケットボール用ゴール2組ということですが、児童遊園地は児童数の多い地域には多く設定されるということは、これは望ましいのは当然でございますけれども、いろいろと土地の確保等につきまして当局も大変御苦労なさっているということも私も存じ上げております。こうした施策は非常にこれからの児童を育てるという意味で非常に現在の児童の生活そのもの、要求そのものが非常に多様化しているそうした中で、そのニーズに合ったものを設定していくということが必要ではないかというように考えるわけでございますので、そうした意味から御質問申し上げるわけでございます。

今回、遊具を購入します遊園地の規模について明らかにしていただきたいと思ひますし、またミニバスケットボール用ゴールの設置の場所についてひとつ説明を加えていただきたいというように考えます。

次に、11ページでございますが、衛生費の中で最終処分場の整備事業費が載っております。これは説明書によりますと、ここにも予算、面積、容量等々載っておりますが、この説明書から推察をいたしますとごみを埋め立てていく場所を設定するということであろうと思ひます。そうすればこれはごみを埋め立てる可能年数というものがおのずから出てくると思ひます。またそこに埋め立てをする可能容量、分量というものも制限されてくるのではないかとこのようにも考えますので、その件に関しまして御説明を賜りたいというように考えます。

また、ここに、説明書にあります立木補償費につきまして説明してください。

また、これはごみを埋め立てるわけでございますので——最近の私たちの身の回りの生活のごみ化を見てもみますと、いろいろな雑多なごみの種類が増えてきております。中にはいわゆる有害なものがあると思ひます。これは埋めても有害であるし、燃しても有害であるというようなものが、最近高度化した生活の中ではそうした種類のごみ化というものが多量化してきているように私は考えるわけでございます。そこで、こうした公害が万が一将来起こらないために今回質疑を私はしておきたいというように考え

るわけでございますので、御答弁いただきたいというように考えます。こうした有害な物に関しての対処策でございます。この質問はさきの私の通告質問との関連もでございますので、よろしくお願い申し上げます。

その次に、同じページの6款の農林水産業についてであります。この中でイチゴ生産振興対策事業額が載っております。この説明書によりますと、これはイチゴの苗を育成するに必要ないわゆる無菌状態の親株を栽培するためのビニールハウスを建設するものであるということでございますけれども、この事業と、観光農業として現在行っております観光イチゴとの関係を少し明らかにしておいていただきたいというように考えるわけであります。

といいますのは、農業を観光に結びつけて、そして生かしていくという方向はかねて私もこの本会議場で当局の推進方を御要望申し上げました関係がございますので、そうした経過もでございますので、この際、今回計上されました予算と観光イチゴとの関係を少し明らかにしていただきたいというように考えるわけであります。

次に、12ページでございますが、ここに豊房育成牧場整備事業費が載っております。説明によりますと、これは機械倉庫塗装工事、牛舎2階改造工事、備品購入——ショベルローダー、トラック等々でございます。この内容につきまして——内容といいますのは、この工事の内容につきまして、これは何をどのように改善されていくのかという点につきましてお答えをいただきたいというように考えます。

また、育成牧場におきましては、このほかに改善が急がれている、整備をしていくべきものが何かほかにあるかどうか、合わせてお尋ねをしておきたいと思います。

御承知のように、豊房育成牧場は委託をされまして、市の直接の管理から離れました。その間、いろいろと市も軌道に乗るまでそれらを指導をしていく、育成牧場としての機能を十二分に発揮していく状態になるまで十分な指導を施していくという約束になっておりまして、そうしたことが前提としまして委託をされたわけでありまして、今回の予算計上にかみ合わせまして、牧場の経営につきまして軌道に乗ってきているかどうか、現状を説明していただきたいというように考えます。

次に、16ページでございますが、ここに道路環境整備事業が載っております。予算計上額があります。これらは平砂浦のフラワーライン花卉植栽ということになっておりまして、いままでこうした事業——この事業は県から補助金をいただいてやってきた経過がありまして、今回の予算を見ますと県へ負担金を出しまして、事業主体が県になってきておるわけでございますので、いままでの補助金事業が負担金事業に変わってきておりますので、事業の内容につきまして今後どういうふうに変わっていくか説明をいただきたいというように考えます。

こういった花の栽培事業というのは、私は館山市が花の館山というように非常に花を標榜している地域であるだけに、非常に大事な施策であるというように常々考えておりました。この施策の性質から言いますと、どうも花を植えていけばいい、委託をして植えていけばいいというようなわりあいにマンネリ化に陥りやすいような傾向がある施策ではないかというように考えるんです。まして、今回県の事業主体となったときにそれらがどうなるかというようなことを考えまして御質問申し上げた次第でございますので、説明をいただきたいというように考えます。

次に、19ページでございますが、これは9款消防費でございますが、消防費の中に消防施設整備事業費が載っております。この事業費の説明の中には防火水槽建設工事等々が入っております。特に御質問申し上げたい点は、防火水槽の建設場所と地元の負担金の割合について説明をいただきたいというように考えます。

また、この予算によりますと、新設をされる消火栓がありますので、その場所と、また修繕の内容について説明を加えていただきたいというように思います。

また、防火につきましては、私も非常に強く関心を寄せているものでありますので、関連の質問といたしまして、最近の火災の事例、傾向を見てみますと、新建材によります有毒ガスに巻かれるという、そして災害を起こすという例が非常に多く見受けられるわけでありまして、こうした直接火によるものよりも新建材により発生する有毒ガスによるものが多いので、こうしたものは、科学的な処理をして人命を救助する対策というものがどのように考えられているかということを考えるんですが、そうした対

策方がもしもありましたら説明を加えていただきたいというように考えます。

次に、23ページであります、3款の民生費でございます。これは民生費の中の地域ぐるみ福祉活動推進事業補助金額が載っております。これは説明書によりますと、各地の福祉を増進するためボランティアを発掘育成し、自主的な地域福祉の増進を図ることが示されておりますが、まず今年度予想されますボランティア活動につきまして、昨年度と比較をしまして新しい活動が組み入れられますかどうか、その辺の予想といいますか、計画といいますか、考え方がありましたらお尋ねをしたいと思います。

また、さきの、先般の私の通告質問の関連で、地域ぐるみ福祉の取り組み方につきましては、さきの答弁では市の方で一応の計画があるように考えられます。これはいわゆるボランティア活動をより一層進めるためにブロック単位で、地域単位でそうしたものを考えて取り組んでいくようなものが見受けられましたので、その計画の内容につきまして、この際関連として、もう少し詳しく説明をしていただきたいというように考える次第でございます。

次に、27ページであります、2款の総務費の中に、安房郡市広域市町村圏事務組合負担金の中に火葬場費が載っておりますが、私はこの火葬場費——944万4000円上げられておりますが、私がお尋ねしたい点は、市長さんがこの組合の理事長でございますので、お考えをお尋ねしたいと思うんです。これはこの予算に関連をしましてお尋ねをするんですが、館山市の現在の火葬場が非常に老朽化をしてきております。それに加えて待合室が非常に寒々とした感じがしまして殺風景であります。私はこうした火葬場というのは全部そういう傾向かなと思ひまして2、3ほかのところを見てもみたら、中には非常にゆったりとした気分で待合室で待てるような、じゅうたんを敷いたり壁を塗ったり、あるいはホテルのロビーと言いますと大げさになりますが、非常に焼き場で待っているという感じがしないように工夫されているところが最近非常に増えてきているんです。

ですから、こうした待合室を建てかえるということは、財政的にもいまはむずかしいかもしれませんが、せめて待合室の内装がいま工夫できないかと考えるんですが、この際関連質問としてお考えがあればぜひお



聞かせを願いたいというように考える次第であります。

最後に、33ページであります。8款土木費の中に市営住宅の維持費が載っております。市営住宅の改修工事と市営住宅維持修繕費の内容につきまして説明いただきたいというように思います。かねて通告質問でも御要望申し上げました私の要望に関連しますので、ぜひどのような工事をどのように行うのかという内容につきまして、この際明らかにしていただきたいというように考えます。

以上、御質問申し上げますので、御答弁を賜りたいというように考えます。市長の御答弁に関しましてまた再質問させていただきたいというように考えます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

まず、第1点、交通安全施設整備事業についての御質問でございますが、市道船形館山港線右折車線設置事業の内容といたしましては、渚海岸交差点及びシーサイドわき交差点の2交差点での右折車による混雑、追突事故等が目立ち、当交差点の改良から右折車線を設置しようとするものであり、このための路線測定委託料66万円でございます。

安全施設整備工事につきましては、防護柵330m、道路反射鏡45基、道路照明3基、案内標識2基、警戒標識5基、区画線1000m及び渚海岸交差点右折車線設置事業でございまして、計977万円でございます。

次に、材料費であります。これは道路反射鏡面35基分、反射鏡取付アーム5基、デリネーター15本でございまして、95万円でございます。

交通安全教育についてでございますが、学校、地域における交通安全教室を館山市、警察署、館山交通安全協会により幼稚園、保育園の園児及び父兄、婦人団体、老人クラブ等、特に交通弱者への教育を実施しておりますが、今後も市交通指導員及び関係団体により地域の交通安全教育を実施するほか、広報、チラシ、ポスター、パンフレットの発行等により啓発を推進し、交通安全市民運動として展開してまいりたいと考えております。

次に、防犯灯新設事業についての御質問でございますが、この事業は防犯協力会で実施しており、昭和52年から年平均73灯を新設し、その設置費の8割程度の費用について市から防犯協力会に助成してまいりました。

過去7年間の年次計画で513灯新設し、現在合計862灯となっております。

市街地はかなり整備されており、一部地域開発に伴う新設箇所があるものの新年度の設置により今後の見通しとしては少数の設置で環境改善が可能と思われます。なお、防犯協力会役員会においても同調を得ましたので、今年度、区、町内会から整備すべきものを一斉に要望をとり、それに対応した予算を計上をお願いするものでございます。

次に、民生費中児童遊園等整備事業についての御質問でございますが、児童遊園は現在14施設が設置されております。この規模でございますが、原則として660㎡以上とされております。14施設の面積は1000㎡未満が6カ所、1000から2000㎡未満が6カ所、2000㎡以上が2カ所となっております。

この児童遊園の補完的役割といたしまして、地域が設置管理する子供の遊び場、子供広場、コミュニティ広場がございまして、これらの施設は4カ所でございます。

次の、ミニバスケット用ゴールの設置場所でございますが、現在まで市設置及び赤い羽根募金補助により18カ所に設置してまいりましたが、59年度は長須賀地区及び西原地区に設置を計画いたしております。

児童遊園の遊具の規定については、特に定められたものはございませんが、標準的設備としてブランコ、砂場、すべり台、ジャングルジム、ラダー低鉄棒、シーソーがあり、施設の規模及び利用者の動向によって設置をしております。

次に、ごみ埋立処分場整備についての御質問でございますが、埋立可能年数は10年を予定し、容量は6万㎡、種類は焼却灰と再資源化できない不燃物でございます。

公害関係で考えられますことは、埋立物からの浸出水による有機性の汚濁と重金属類による汚染でございますが、万一の場合を考えまして地下への浸透を防ぐための遮水帯を設けるとともに、酸化溝、酸化池、凝集沈でん池及び砂ろ過装置等の水処理装置を設け、万全を期しております。

次に、立木補償についてでございますが、これは予定地内に植林されている杉86本に対するもので、積算の根拠は千葉県の基準によるものでご

ざいます。

次に、イチゴ生産振興対策事業についての御質問でございますが、イチゴ生産振興対策事業で育苗ハウスを建設する事業でございますが、イチゴ組合では46年に同事業で無菌苗ハウスを建設し、苗の供給を続けていましたが、老朽化いたしましたため今回更新するものであります。ここで育った無菌苗を組合員に供給しているわけでございます。観光イチゴ狩りは組合員のうち14名が参加しておりますので、当然この無菌苗を利用した病気のない新鮮なイチゴをお客様に提供いたしております。

次に、豊房育成牧場整備事業についての御質問でございますが、豊房育成牧場は昭和58年10月1日、安房郡畜産農業協同組合に業務管理を委託いたしました。今回の整備事業は省力化のための整備が主なものであります。これは委託契約時の条件でもあります。

備品購入では、いままではふん尿を人力で運搬車へ積み込んでいたものを、ショベルローダーに切りかえようとするものでございます。トラックは、老朽化——すなわち、47年式の2トントラックでございますので、これを比較的新しい中古トラックに買いかえようとするものでございます。

施設につきましては、牛舎の2階が飼料等倉庫になっておりますので、直接倉庫の中までトラックが出入り可能にするための改修でございます。

機械倉庫の塗装工事は、昭和45年開設以来やらなかった塗りかえを実施しようとするものでございます。

第1点の、他に育成牧場関係で改善を急がれているものがあるかとの御質問でございますが、59年度の事業が完了すれば、急がれている現時点での改善点は一応終わり、当面の改善予定はございません。

第2点の、牧場経営について軌道に乗っているかどうかの御質問でございますが、現在92頭入牧しており、順調に育成中と聞いております。

次に、商工費中道路環境整備事業についての御質問でございますが、南安房公園線内でフラワーラインと呼ばれる平砂浦地域等については、58年度まで県と市で地区を分けて菜の花の植栽を行ってまいりましたが、市の行っている植栽事業については719平米であり、県は3600平米でございました。59年度から県の共同実施の申し入れにより、菜の花植栽についても現在行っている花木植栽同様負担金にて実施しようとするもの

でございます。

道路環境整備の総事業費は600万円でございますが、市の負担は3分の1で、内訳といたしましては、花木植栽100万円、菜の花植栽100万円であり、菜の花の植栽面積は4300平米を予定いたしております。

次に、消防施設整備事業に関連しての御質問でございますが、防火水槽建設場所は、有蓋は柏崎、八幡地区、無蓋は青柳、犬石、畑地区の5カ所でございます。

地元寄付金につきましては、総事業費の8分の1の負担をお願いしております。

次の、新設消火栓の設置場所は、下町、南町、六軒町、渚、東藤2カ所、正木、犬石、佐野、大戸の10カ所でございます。

修繕の内容につきましては、老朽化による本体、鉄蓋、ボックスの取りかえ並びにかさ上げ等の補修9カ所でございます。

有毒ガスを化学的に処理をして人命を救出する対策につきましては、有毒ガスを化学的に処理する方法は現在のところございませんが、事故を未然に防ぐため今後とも火災予防の徹底を期したいと考えております。

次に、地域ぐるみ福祉活動推進事業補助金についての御質問でございますが、まず第1点目の、59年度予想されるボランティア活動についての御質問ですが、ボランティア活動は民間主導により社会福祉協議会が推進母体となって展開されておりますが、59年度の事業につきましては従来より実施されております給食サービス、視覚障害者に対する声の広報など各種事業における対象者の拡充を図っていくものでございます。

第2点目の、地域でのボランティア活動の計画と内容につきましては、社会福祉協議会ではボランティアを中心とした地域福祉に対する主体的な活動の推進を目的として小地域単位に支部の結成の計画を検討をしております。その内容につきましては社会福祉協議会の基本方針に沿いながら住民への福祉の啓発、学習活動、またはサービスの提供など自主的な活動を展開していくものでございます。

次に、安房郡市広域市町村圏事務組合負担金に関連して、火葬場整備についてでございます。本年5月、鴨川、天津小湊の両火葬場を統合いたしまして、4カ所から3カ所に整備されることになりました。ようやく圏域

内住民の方々が平均した設備、内容をもった施設を利用できることになったわけでございます。

整備の段階では、まず館山市から実施していった関係上、建築以来12年を経過しておりますので、したがって御指摘の点もあろうかと存じますが、常時、整備、補修にも努めておりますし、特に利用の面、外見の点等に問題がありますれば、広域圏事務組合にその対応を図ってまいりたいと存じます。

最後に、市営住宅維持費に関連しての御質問でございますが、第1点、市営住宅改修工事660万円の内容でございますが、昭和40年度建設いたしました岡沼住宅の屋根防水、外壁修理、玄関ドア交換及び漁民住宅の揚水ポンプ取りかえ工事を計画しております。

第2点、市営住宅維持修繕費710万円の内容でございますが、主として昭和35年度から39年度に建設いたしました笠名住宅及び大賀住宅の木造平家建てにつきまして屋根、床及び建具の修理と昭和47年度建設いたしました萱野住宅の建具修理を計画いたしております。

以上、答弁を終わります。

○20番(石井武敏君) ただいま市長さんの御答弁でおおむねの了承はいたしました。なお細部にわたりまして何点かもう一步深くお尋ねをしたい点がございますので、お答えいただきたいというように考えます。

初めの、交通安全施設の整備事業でございますけれども、この事業費につきまして御答弁としては十分了承いたしました。

関連しまして、この予算を組む場合に、この予算はいわゆる館山市で発生した事故率の、事故の量によりまして予算の増減があると思います。交付金として返ってくるんですが、交付金が予定の額まで達しなかったというと事故が多くなかったということになります。そうしたことで大分削減をした年度があったように記憶をしておりますので、今回の予算の見積もり方につきましてお尋ねをしたいんですけれども、これは事故率から推しはかっていきますと、これはどういう傾向でとらえているんでしょうか。事故が増えてくるということで多少上向きにとらえている予算でしょうか。あるいは同じくらいの事故であるということにとらえているんでしょうか。まず予算の組み方の基本でございますが、基礎になるデータのとらえ方に

つきまして御質問申し上げます。先ほど言いましたように、以前カーブミラーとか歩道橋とか、そういった施設が交付金が少ないために計画が遅れたという年度があったように記憶しているので御質問するわけでございます。

それから、次の防犯灯につきましては、現在862灯、今後は少数の要望で——要望も少なくなってくるだろう、そのくらい設置個所としては充実できているはずだという御答弁でございます。この答弁で了承いたします。

次に、遊園地につきましてでございますが、これはただいま御答弁いただきました内容としまして了承いたしますが、今後予定されているようなところがありましたら、合わせてお答えをいただいております。

次に、ごみの埋立処分場でございますが、御答弁によりますと、これは10年間の可能年数があるということ等々お答えをいただきましたけれども、万一そうした公害物が漏れないように遮水帯を設けるということでございまして、お答えがありました。これはもう少し遮水帯につきましてどういう形態で、これが面積的にはどういう面積でそれを設置するのか、くれぐれも後々公害が発生しないようにということで、そういう観点から再質問しているわけでございますが、もう少し設定する面積とか、遮水帯の設定の方法とか、どういう形のものを入れるのかということをはっきりしておきたいというように思います。お答えいただきたいというように思います。

次に、イチゴの生産につきまして、これは観光農業としての観光イチゴに参加してくる人は14名であるというお答えがございました。これは全体的には何名の方がこれを利用しているんでしょうか。必要な人には平等に行き渡らなければならないのではないかと思います。そうしたことから人数を明らかにしていただきたいというように考えます。

また、観光と農業を結びつけていく施策というのは、市長さんの施策の中にたしかあったように思うわけですので、これは関連といたしまして計画があればここでお示し願いたいと思うんですが、農業を生かした観光という形につきまして何か新しい考え方をお持ちなのではないでしょうか。関係課で検討なさっているものがあつたらお示し願いたいというように考えます。

私も、非常に観光農業についてはぜひ推進をしていただきたいというように常々考えているものでございますので、御質問申し上げます。

次に、豊房育成牧場についてでございますが、ただいまの御答弁では工事の内容は省力化の整備であること、またこれは委託の際の条件であったということ、等々が御答弁にありました。また、当面は改善するところはないということでございました。

それで、おそらく豊房育成牧場の経営が軌道に乗るまでいろいろな面から指導をなさってきておるといいますし、指導が実りつつあるというようにお聞きしているんですが、育成牧場におきまして品種の改良という点につきまして、よい牛を育てるということで品種を改良しているのではないかと思います、これはどういうふうに指導なさっておりますか、もう少し詳しくお願いしたいと思います。

それから、合わせまして、御答弁では92頭という御答弁ありましたけれども、もし、増頭する計画というのは——いま全然お考えはないんでしょうかお尋ねします。

次に、フラワーラインにつきましてでございますが、細かく御答弁いただきましたのでよくわかりましたが、先ほど申し上げましたように施策的には非常に、ただ花を植えればよいというマンネリ化に陥りやすいということを先ほど申し上げましたけれども、やはりこれに関して館山市が花の館山ということでパンフレットをつくったり、広報活動、広宣活動しておりますので、お尋ねするわけですが、やはり花に関しましてどこにどういう花を効果的に植えたらいい、どういう花が長持ちするとか、どういう花が観光客に喜ばれるとか、そういった際立った研究があってもいいはずではないかというように考えるんですが、こういった研究とか検討というものは行われておりますかお尋ねいたします。

次に、消防費に関しましては、これは了承いたします。

次に、ボランティア問題でございます。地域ぐるみ福祉活動についてでございますが、これはただいま御答弁にありましたように、そのいわゆる対象者を拡充していくために協議会が活動しまして、地域で主体的なボランティア活動ができるように支部の結成をしていくというように御答弁がありました。

私、今回この質問を取り上げました理由といたしましては、これからの館山市のボランティア活動の、これから、将来のボランティア活動の基本になるように感じとったんですので、この点につきましてももう少し詳しく説明がほしいと思うんですが、支部の結成をすると言いますが、これはどういう形態で、たとえば館山市を何地区かに割るのか、どういう形態にするのか、その辺をもう少し明らかにしておいていただきたいというように考えますので、お答え願いたいと思います。

次に、最後の市営住宅の問題でございしますが、これは修理箇所等々、御答弁で了承いたしますが、合わせまして御質問いたしたいことが1点ございます。

それは、かねてから要望事項があったはずでございしますが、市営住宅で詰め所——いわゆる住人が集まって何か物事をやる場所がない、集会所といえますか、詰め所といえますか、相談をする場所がないという要望があると思うんですが、この点につきましてはかなり前から要望が出ているように思いますが、どのようにこれを御検討いただいておりますか、経過につきまして御説明いただきたいというように考えます。

以上、御質問いたします。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 交通安全の交付金を予算編成上から予算見積もりをどう考えているかということでお答え申し上げます。

御案内のように、59年度の地方財政計画もでき上がりまして、いま国会で審議いただいておりますが、その中身を見ますと去年と比べまして今年度は総額で133億円多く見積もってございます。それで当市の交付につきましては、御案内のように道路の延長、面積、それと交通事故件数等で案分されます。そういうこと等から交通事故——先ほど御質問ございましたけれども、若干の伸びを考えております。

○民生部長（鈴木 力君） 児童遊園地の今後の設置予定でございすけれども、いままで地元の町内、あるいは区の方から土地の提供ございまして、御要望ございすればそれにおこたえをして設置をしてまいったわけでございます。今後におきましても、そのように地元の方で土地を提供していただければ設置を計画をいたします。

次に、最終処分場の遮水帯の面積、あるいは構造の関係でございしますが、



予定しておりますごみの埋立地の——大体面積にいたしまして1万1200平米の底面、のり面、この部分に上質の粘土を張りまして汚水の地下浸透を防止する方法でございますが、底面につきましてはこの粘土を厚さ60cm、のり面につきましては水平圧1mの厚さといましてのものでございます。なお、これにつきましては、最初に掘削をいたしまして粘土を張りめぐらす、こういう方法でございます。

続きまして、地域ぐるみ福祉活動におきまして、各支部の結成の具体的な計画でございますけれども、これは住民主体の社会福祉協議会活動を推進するために、より市民に近いところでの地域福祉活動を推進するために、その推進母体として館山市の社会福祉協議会の支部を各10地区に設置しようということで、現在この計画を社会福祉協議会の方で進めているところでございまして、その結成によりましてより以上の機能強化を図るという考え方でございまして、特にボランティア活動等中心とした地区活動を積極的に推進していこう、こういう考え方に立っておるわけでございます。

◎経済部長（山田俊康君） イチゴの生産農家の関係でございますが、イチゴの振興組合に加盟しております組合員は28名、観光イチゴを実施しておりますのは耕地の関係等もありまして14名ということでございます。

観光農業との結びつき、考え方を内部検討ではどのようにということでございますけれども、当然のこと市長からも強く言われておりまして、冬暖かく、夏涼しい館山市ですから、この恵まれた自然を生かして観光農業を推進すべきだということで、特に今回はスポーツの里というようなことでもありまして、今後の問題としてはスポーツの里自身が山本にできましたので、山本地区が日本ナシの栽培がされておりますので、これらについても今後考えていこう、当然花摘み、イチゴ園に加えて観光農業資源として考えられるんじゃないだろうかというようなことを内部検討しております。

また、一部サクランボ等の試験栽培等も実施しておりますので、それらの問題についても検討しております。

観光、レクリエーションそのものが時間消費型、滞在型ということでだんだんと見る観光からする観光へと変わりつつありますので、そういったものを取り入れるということで、海、田園、そして丘陵、山ですか、そういったものの変化も活用しながら、今後健康志向型の体験観光ということ

で対応していきたいというふうに考えております。当然観光農業を育成しながら農家経済を増やすことを目的にすべきだというふうに考えております。

それから、育成牧場で品種改良の指導ということでございますけれども、牧場自身はあくまでも育成ということで、直接市で品種改良はしておりません。

ただ、牧場の牛は、現在畜主の希望で希望する牛の精液を——主として畜協ですけれども、畜協の受精師によって行われております。一番多く行われておりますのは、県の嶺岡の乳牛試験場にあります雄牛からの受精をしております。中には社団法人家畜改良事業団のこの牛のという要望もあって、そういったものも実施しておりますけれども、現在は畜主の希望によって行っているというのが実情でございます。

それから、増頭計画はあるかどうかということでございますが、畜舎の改善等によりまして、条例いっぱいの100頭ということで考えております。

それから、フラワーラインの花の研究、検討でございますが、これも菜花植栽のほかに現在も婦人スポーツクラブ、あるいはガールスカウトの皆さん方の御協力を得ましてマツバギクとかアメリカフヨウ、スイセン等を試験的に植栽して案外よい結果が出ていると自分たちは考えております。56年度に植栽いたしましたカンナについても好評でございますし、今後も気象条件、土壌等を考えまして暖地園芸試験場、南房パラダイス等の技術関係者とも協議を重ね、この地区に適した種類を計画的に植栽してまいりたいと考えております。

市営住宅の詰め所、集会所の関係でございますけれども、これは用地等の関係で、建てかえと合わせて考えていきたい、現在の市営住宅が老朽化しておりますので、いずれ建てかえの時期が参りますので、その際合わせて集会所等を建設していきたいと考えております。

以上です。

○20番（石井武敏君） 始めの総務費の交通安全施設の整備事業に関しまして、総務部長から御答弁ありまして、事故件数としての、押さえ方としては多少の伸びを見ているということで、ただいまの御答弁で了承いた

します。

全く違った観点から御質問するんですが、最近の交通事故の内容を見ますと、自転車による事故が非常に市内で多くなっております。年々多くなっております。また自転車の事故の被害の状況が普通のものよりも非常に大きな被害が多いんです。こうした点で、先ほどの御答弁では、各種団体に呼びかけて交通教育をなさっているということなんですが、私は自転車を運転なさる方々を何か特別なものでとらえて、安全教育をぜひやっていただきたいというように思うんですが、この件に関しまして御要望申し上げますとともにひとつお答えを聞きたいんですが、よろしく願いいたします。

それから、遊園地につきましては、地元の要望があれば受け入れ体制があるというようなお答えでございますので、いずれにしても土地がないからできないということだろうと、この点に関しましては質疑を打ち切ります。

次に、いわゆるごみの埋立地の公害化問題でございますが、御答弁によりますと、1万1200平米これは全部、埋め立てるところ全体を粘土で60センチのものを入れて対応するんだというお答えでございます。粘土で、60センチのもので本当に十分かどうかということは疑問があるんですけれども、質疑としてはこの際打ち切ります。

次に、観光イチゴにつきましてでございますが、御答弁によりますと、イチゴのほかに——花、イチゴのほかに現在ナシとかサクランボ等々検討しているということでございますので、検討を進めていただきたいという要望を合わせまして、質問を打ち切ります。

次に、豊房育成牧場に関しまして、これは100頭というお答えがありましたけれども、現在の収容能力は100頭ないように思いますが、そうすると増築をするということでございましょうか、お答え願いたいと思います。

それから、フラワーラインの花に対する研究、検討は進んでおるようでございますので、ぜひ推進していただきたいということで、この件に関する質疑は打ち切ります。

ボランティア活動につきまして、ただいまの御答弁で10地区というよ

うに承りました。これから将来のボランティア活動の基本になる施策であると思いますので、よく検討なさっていただきたいと思います。

● 合わせまして、ボランティア活動をする人たちが事故を起こした場合、交通事故とかそうした場合の、ボランティア活動をしている人たちが事故を起こした場合の補償とかそうしたものはどういうふうに考えられておりますか、合わせてお尋ねしたいというように思います。

最後に、市営住宅に関係した問題でございますが、御答弁によりますと、市営住宅建てかえと合わせてそれらを考えるという御答弁でございましたので、最後に建てかえの時期や目安について具体的にありましたらお示しを願いたいというように思います。

以上、御質問します。

○民生部長（鈴木 力君） まず、第1点の自転車による事故、これに対する防止の対策でございますが、自転車事故につきましては、現在58年度を見ましても当市におきましては総体の事故の18.7%ということで、件数にいたしまして60件あるわけでございますが、これはあくまでも警察署に届出をした件数でございますが、このほかにもかなり自転車による転倒等によって単独の事故というものはあるというように考えられるわけであります。特に当市におきましては市民交通傷害保険ですか、ここに加入しておりまして、自転車によってけがをしたということで給付の対象になるという申し出が、そういうケースのものがかなりあるわけでございます。

こういうことから、特に59年度におきましては、交通安全運動の中で自転車事故防止ということを特に取り上げてまして対策を立てていきたい、こういうことでございまして、その対策といたしましては2点ございまして、その1点が自転車利用者に対する交通安全指導の推進ということでございまして、警察官、あるいは交通巡視員、交通指導員等を中心とした自転車に対する安全教室の開催、あるいは街頭指導等の機会を積極的に利用いたしまして、自転車の安全な通行方法、あるいはまた必要な道路標識及び表示の見方等についての指導、こういうことで自転車利用者の交通安全思想の普及、高揚を図りたいということでこれを計画的に実施していきたい。

2点目は、自転車の点検整備の推進ということでございまして、自転車安全整備士等との連携のもとに自転車安全整備教室の開催や街頭点検を実施いたしまして、自転車の定期的な点検整備の励行等の指導、あるいは自転車の点検整備制度の周知徹底を図るということで、特に59年度におきましては交通安全対策の上で自転車の事故防止を取り上げて推進をしてみたいというように考えております。

次に、ボランティア活動の中で事故を起こした場合の補償ということでございますが、これにつきましては社会福祉協議会におきまして、全国の社会福祉協議会でボランティア保険というものがありまして、そこに加入しております。万一事故のあった場合におきましてはそのボランティア保険を適用されるということで現在進めておりまして、市におきましてもこの保険料につきましてはボランティア活動費の中で含めまして助成をしている現状でございます。

○経済部長（山田俊康君） 豊房育成牧場の頭数100頭ということでございますが、施設は確かに——58年度の12年補正予算でお願いして、それまでは90頭でございました——お願いしまして、現在は100頭収容できるようになっておりますので……。

それから、市営住宅の建てかえ時期ということでございますけれども、最も古い市営住宅——北条住宅が29年でございます。昭和29年住宅となっております。そして西口の区画整理事業にもかかってくるので、これが62、3年ごろには取り壊しということになるかと思えます。それに引き続いて大賀、笠名というふうに古い順に建てかえを行っていきいたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○20番（石井武敏君） 質疑を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で20番議員君の質疑を終わります。

次、2番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○2番（田沢勝信君） すでに通告しております順に沿って御質問を申し上げます。

社会福祉制度の諸施策が積極的に活用される立場から、何点か御質問を申し上げます。その際、私は予算事項別明細書を使用いたします。

一般会計歳入の部であります、第1点といたしまして、第10款の国庫支出金2項4目の7節の幼稚園就園奨励費についてであります。この幼稚園就園奨励費は幼稚園の保育料、また入園料の減免に関する国の補助であるというように伺っております。ここ数年のこの補助金を見てみますと、55年から59年の間に約公立の補助に関しては3分の1となっています。私立の方に関しましては56年をピークにいたしまして漸減の傾向にあります。昨年度の当初予算に比べてみましても、公立、私立合わせて21万2000円の減になっております。その理由につきましても少し詳しく御説明を伺いたいと思います。

次に、同じく第10款の3項1目1節の拠出制国民年金市町村事務取扱、あるいは福祉年金市町村事務取扱交付金の減であります。昨年と比べまして88万8000円の減になっておりますが、この理由は何か、同じく説明を賜りたいと思います。

次に、歳出の部であります。

49ページ2款総務費の1項1節産業医報酬についてであります、昨年度同様の額になっております。この産業医は50名以上の事業所に配置が義務づけられたものであります。当市は正木処理場が対象になっているかと伺います。衛生に特段の配慮がなされなければならない事業所ですが、産業医の活動内容についてお聞きいたします。

次に、59ページであります、2款総務費の2項8目19節安房地区踏切事故防止対策協議会の件についてであります、踏切の安全に関する市民の要望も多く出ておりますので、その活動内容について御説明を伺います。

次に、83ページの第3款民生費3項1目19節家庭保育保護者助成についてであります、今年度はおおよそこの予算を見てみますと10名ほどの見積もりで予算化されておりますが、これまでの実績等に合わせまして、その実績等を説明をお願いいたします。

次に、同じく3款民生費についてであります、1項の1目15節の福祉作業所の増設についていまして少しお伺いいたします。この福祉作業所の増設につきましてもは障害者を持つ多くの父兄から強い要望があったものであります、今年度から増設をされるこの福祉作業所の定員等の増は何人ぐ

らいを見込んでおられるのか説明を願いたいというふうに思います。

次に、128ページであります。10款の教育費についてお尋ねします。1項2目19節の館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合分担金についてであります。長期根幹計画を見てみますと3年計画で給食センターの設備の更新をされるようにありますが、今年度の館山市の分担金を見てみますと昨年比にいたしまして1843万1000円の減になっております。この辺の事情につきまして御説明を賜りたいと思います。

最後に、140ページであります。同じく教育費の4項2目19節についてであります。私立幼稚園就園等助成費が昨年に比べまして36万3000円の減になっております。この減の理由につきましていまい少し詳しく御説明をお伺いしたいと思います。

御答弁によりまして再質問をいたします。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 田沢議員の御質問にお答えをいたします。

第1点は、幼稚園就園奨励費の減についての御質問でございますが、公立、私立ともに対象人員の減によるものでございます。58年度当初予算におきましては公立75名、私立39名で積算いたしましたが、実績におきまして公立58名、私立29名、計87名で27名の減となりましたので、この実績に基づいて59年度を積算いたしたわけでございます。

次に、国民年金事務取扱交付金についてお答えをいたします。昨年と比べ拠出制国民年金で83万4000円、福祉年金で88万8000円減少した理由の主なものは、それぞれ算出基礎となる当市の国民年金被保険者及び受給権者が減少したためでございます。

次に、産業医報酬に関する御質問でございますが、産業医の活動内容でございますが、産業医は衛生管理者に指示して、月1回職員の健康相談と成人病予防検査を行い、さらにこれについて産業医は専門的な立場から指導助言を行っております。また、衛生教育の一環として座談会などを開催することにより産業医が直接職員に指導できる機会を設けるなど職場における職員の健康保持に努めております。

次に、安房地区踏切事故防止対策協議会の活動内容でございますが、具体的活動としましては、踏切事故防止の広報、踏切安全に関する交通法規

等の普及及び保安設備の強化、見通し障害物の排除、その他踏切施設の整備等促進を図っておりますが、特に保安設備として停止線の整備を推進しておりますのでございます。

家庭保育保護者助成についてでございますけれども、児童の健全育成を図るため、3歳未満児の家庭保育を委託している保護者に対しまして、その費用の一部を助成しておりますが、昭和58年度におきましては零歳児6人、1歳児3人、2歳児6人の計15人、延べ135人が対象となり、助成額は67万5000円になる見込みでございます。また、受託を現在登録している方は21名となっております。

福祉作業所の増築について、増築による定員増は何人を見込んでいるかという御質問でございますが、現在19名の定員でございますが、30名にする予定でございます。

次に、館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合分担金が昨年比1843万1000円減じておる理由についてという御質問でございますが、この主な理由といたしましては、58年度に給食搬送車6台を購入いたしました費用が59年度はなくなったことによるものでございます。

最後に、私立幼稚園就園等助成費の昨年比36万3000円の減の理由でございますが、さきに歳入、幼稚園就園奨励費で御説明申し上げましたとおり対象人員の減によるものでございます。

以上、答弁を終わります。

○2番（田沢勝信君） ただいまの市長の答弁でおおむね理解をしているところでございますが、何点かにつきまして再度御質問を申し上げたいと思います。

歳入の部で御質問いたしました幼稚園の就園奨励費の減であります、人員の減だという答弁があったわけですが、この件につきましては私どもたびたび聞くのは、このような制度が市民にまだまだ浸透が図られていないんじゃないかということをもま経験いたすわけであります。このような制度を積極的に活用していただくためにも広報等でもっともっと積極的に市民にお知らせができないものかどうかお聞かせいただきたいと思います。

次に、歳出の部で御質問いたしました踏切の安全対策の問題であります



が、いまだ少し要望も含めまして再質問をいたします。

この踏切事故防止対策協議会では種々の活動をやっているようではありますが、私が市民から多く要望を聞きますのは、夜間の踏切の安全対策についてであります。国鉄のいまの仕事というのは夜間に集中される傾向がございますが、それも終電車が通った後、モーターカー及び作業車が線路軌道の上を走って作業現場に行くわけであります。そのような仕事の内容が市民に知らされておられませんので、道交法で踏切では一時一旦停止の義務があるわけですが、終電車が終わるとどうしても踏切で徐行したまま通行するというのが多いかと思えます。

私は、このことに関しましては八幡の踏切で館山市民が実際に事故に遭って、補償もされないまま過ぎてしまう、そういうことを見ております。そういうことを踏まえまして、ぜひこの協議会で夜間の踏切対策を強化していただきたい、そういうような協議をしていただきたいということを要望したいと思えます。これはいまの国鉄の機構上、遮断機を降ろしてモーターカーを通すことができない、そのような技術上の制限もある問題でありますので、ぜひ市といたしましても国鉄等と協議いたしまして、そのように実際終電後も線路軌道上をモーターカーが通ることもあるんだということをぜひ市民にも広く知らせていただきたい、そのような要望を申し上げた質問にさせていただきます。

それから、順序がちょっと前後いたしますが、産業医についてですが、私どもが調査した経過もございすけれども、実は昨年度労働団体等含めましてこの産業医の配置がされているにもかかわらず事業所等ではなかなか産業医が巡回できない、そういうことを私どもが調査の上把握しております。そのときは館山市でたった1軒の事業所のみが産業医が巡回してきちんと労働安全衛生法で定められた業務をしておりました。

そこで、この件につきましては再度質問いたしますが、当館山市できちんと正木の処理場に産業医が月1回行っているのかどうなのか。そのことを再確認をいたしたいと思えます。

その他につきましては、市長の答弁でおおむね了解しておりますので、何点かについて御回答が願えればと思えます。

○教育長（安田豊作君） 幼稚園の就園奨励費の問題について、積極的に

広報などで知らせる考えはないかというようなことですが、市長から答弁いたしましたように対象児童の減というのは、第1は幼児の数が全体的に減った、それが対象人員の減ってくる原因です。それから、こういう制度の周知徹底については、幼稚園に來ている子供が対象ですから、幼稚園で全児童の家庭にチラシ等で通知をして、それで内申のあったものについてを該当児としてみる、こういう手続きをとっておりますので、広報の問題についてはまた別途考えますけれども、この問題については落ちはないものと考えております。

以上。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 産業医についてお答え申し上げます。

産業医の指導に基づきまして市の衛生管理者が正木処理場でいろいろ健康活動をしておりますが、御指摘のとおり月1回ない月がございますので、趣旨の徹底に努めたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 夜間の踏切事故防止対策につきまして、御指摘の気動車の夜間運行時の安全対策につきましては国鉄と協議を図ってまいります。市といたしましてもこれから広報に掲載いたしまして、さらに一時停止、安全確認の励行を呼びかけてまいりたいというふうに考えております。

○議長（石井 正君） 以上で2番議員君の質疑を終わります。

次、1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） すでに通告いたしました諸点について御質問を申し上げます。

まず、歳入についてであります。

私の質問は、この予算書の事項別明細に沿って行ってまいりたいと思います。

28ページ負担金の中で、民生費負担金児童福祉施設負担金についてであります。1億614万、児童福祉法第56条による負担金、公立5306万3000円、私立5307万7000円ということで御説明があるわけですが、いわゆる保育園の保育料であります。昨日の補正予算の質疑の中にもありましたが、国の負担が減ってその分市が肩がわりするよ

うな傾向が、いわゆる超過負担の問題として大きな社会問題の一つにもなっているわけでありましたが、今度の予算の中ではいわゆる超過負担の問題、この問題についてどのような傾向になっているのかお聞かせを願いたいと思うわけであります。

次に、41ページ、寄附金についてであります。一般寄附金ということで1288万7000円が当初予算ということで見込まれておるわけであります。前年度が703万2000円。寄附金というようなこの項目の性格からいって、当初予算に盛るということについてはよくよくのことがなければなかなかできないものではなかろうかと常々思うわけであります。かなり確実な見込みがあると思われるわけで、しかもかなりの金額が計上されているわけであります。その内容について御説明をいただきたいと思うわけであります。

また、これまで寄附金の問題につきまして、いわゆる市道であるとか、あるいは消防であるとか、こうした問題について地元の寄附金という問題についてはその全廃を繰り返し主張してきたところでありましたが、この点について新年度の中ではどのような配慮がされておるのかお聞かせを願いたいと思うわけであります。

次に、歳出についてであります。

62ページ、先ほど御質問がありましたが、防犯灯の新設事業補助金についてであります。195万円ということで、これは例年80万円というように計上の中でこれまでやってきたわけであります。大変街が明るくなるということで住民にも喜ばれることではないかという点では期待を持つわけでありますが、先ほどの御説明等につきましてもちょっと不安もありますので、もう一度この予算の執行についてどのような実施をしようとするものなのか御説明を願いたいと思うわけであります。

次に、もとへ戻りまして51ページであります。文書広報費ということで市の広報の発行の諸費用について本年度で3563万9000円ということで予算が計上されておるわけであります。市の広報は市民にとって市の行政をする大変貴重な窓口であるというふうに思います。その内容の充実がさらに図られなければならないと思います。しかし同時に見方を変えてみますと、市の行政というのは市民にとって知りたい情報がなかなか手

に入らない、こういうこともあろうかと思ひます。これが実情でもなかろうかと思ひわけです。各種情報を必要とする市民には、特別の事情のない限りできるだけ市の情報については公開をしよう、そして市民に提供をしようじゃないかという、いわゆる情報公開についての議論も各自治体で行われておるといふようなこととございます。市においてこういう問題についてこれまで検討されたことがあるのか。調査をしたり、研究したりした経過があれば御説明をお願いしたい。また、ないとすれば今後検討の必要はお感じにならないのかお聞かせ願ひたいと思ひます。

次に、55ページであります。企画費ということで報償金、アンケート調査記念品代ということで3万円という大変わずかな予算計上なんですありますが、館山市の総合計画——基本構想、基本計画、こういう館山市の10年を見越した計画が策定されたのがちょうど10年前でございます、49年にこうした計画が出されておるわけですから。その計画では昭和50年から60年度ということで10年間の計画を想定をしてつくっております。この長期計画といいますか、この基本構想について新たな検討をしなければならない時期であろう、アンケート調査というのもそうした含みを持ったものであろうかと思ひわけです。次期の基本計画の策定の準備にかならなければならないのが新年度の事業内容ではなかろうかと思ひわけです。

そこで、お尋ねをするわけですが、これまでの10年について、現時点での認識、感想というような性格のものになろうかと思ひますが、10年前に想定した基本計画の中で進んだ部分、あるいは非常に遅れているという、残された課題というものは何であるのか、その辺についての感想的な認識といつてもよろしいかと思ひますが、その辺をお聞かせ願ひたい。

また、今後の計画策定についてどのように進めようとお考えであるか。いわゆる総合計画というものは計画のための計画であつてはならないと思ひわけです。やはり計画を持った行政というのは計画性の面、あるいは行政の総合性の面、こういうことでどうしても必要なことだろふと思ひわけです。しかもそうした計画が住民の意向が反映されたものであること、あるいは現状の分析を正しく把握したものであること、こういうこと

がどうしても必要なのではなかろうかと思うわけであります。市当局においては今後の計画策定についてはどのように進めようと考えているのかお聞かせを願いたいと思います。

次に、59ページであります。電子計算機費ということで5087万6000円が計上されておりますが、この中に委託料567万4000円ということで計上されております。この説明書等読みますとキーパンチャー派遣委託料などということであるわけですが、市の行政が大変コンピューター化が進んでおるわけでございます。ということは、市の職員以外の、いわゆる民間の職員といいますか、こういう方がこうした市のさまざまな情報に接し得る機会が多いわけであります。その点から市民のさまざまなプライバシーに関する情報、これをも知り得る立場になるのではなかろうか。たとえば市民のだれだれがどういう病歴を持っているだとか、あるいは税金の納付はどうであるかとか、なかなか個人のプライバシーとして人に知られたくない情報も市は握るわけでありますから、そういう点でこうした市民個人のプライバシーの保護は電算化が進む中でどのようにその保護が万全が期せられているのか。その点についての心配はないのかどうかお聞かせを願いたいわけであります。

次に、83ページであります。児童福祉費の中の負担金ということで補助金という細かい項目の中に青少年相談員連絡協議会補助金108万6000円、これが計上されております。青少年活動の推進ということでこうした補助金の内容についてお尋ねをしたいと思うわけなんです。青少年相談員の活動というのは大変に大事な活動だと思います。特に最近は地区単位の活動がこういう中では大変に重要な意義を持っているのではなかろうかというふうに思います。しかしながらこうした青少年相談員の活動の分野で同時にさまざまな事故も常に考えなければならないと思うわけであります。市全体の行事についての事故についてはその保険の負担を市の方でもされておるように伺っていますが、地区単位の活動についてはこうした事故に対する補償の負担、これは市においては配慮されていないように聞いております。なかなか青少年相談員の地元での、地区での活動が推進をしていく上ではそうした事故に対する不安といいますか、その補償のあり方の問題をめぐって活動が鈍るということになってはいけないかと思

ますので、この辺についての考え方、負担のあり方についてどういうふうに考えておるのかお聞かせを願いたいと思うわけであります。

以上、質問いたしました諸点について、御答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

児童福祉施設負担金について、いわゆる超過負担の問題の御質問でございますが、59年度における保育所へ入所措置する児童に係る措置費の総額は3億8234万5000円となっております。これに対しまして国庫負担金が1億3330万円、県費負担金等が2666万8000円、保育料が1億614万円、市の義務負担額が1666万2000円で、差し引き9957万5000円が不足になるわけでございますが、そのうち209万7000円は市が58年度の基準によりまして保育料を徴収しています関係で、9957万5000円から209万7000円を引いた額が超過負担見込み額となる予定でございます。

次に、寄附金増額の理由についてでございますが、奨学資金寄附金で30万円、対前年度比10万円の増でございますが、これは過去の経験からこの程度は見込めるということでございます。

水産関係寄附金としましては、1035万1000円を予定いたしましたが、これは事業費の増加に伴うもので、内容は伊戸、下原、船形、見物、富崎等、各漁港整備のための寄附金でございます。

消防関係寄附金で223万6000円でございますが、これは事業費の増加によるもので、内容としましては防火水槽の有蓋2基、無蓋3基の建設費に伴うものでございます。

なお、逡減及び廃止につきましては、今後とも引き続き検討してまいりたいと考えております。

市道整備の寄附金についてでございますが、市道舗装については昭和59年度から寄附金受け入れを全廃したいと考えております。

また、市道側溝新設につきましては、昭和59年度2%の寄附を受け入れ、以後は全廃を予定しております。

なお、生活道等は5%から10%程度、従前どおりお願いをしていく予

定でございます。

次に、防犯灯新設事業についてでございますが、さきに石井武敏議員に御説明申し上げましたとおりでございますが、昭和59年度において市内の全必要個所を整備すべく各地区防犯協力会に——市内10地区でございますが、各地区防犯協力会におきまして一斉調査を行い、予算化を図ったものでございます。

文書広報費に関連いたしまして、情報公開についての御質問でございますが、御承知のとおり、情報公開制度の考え方は、住民参加による行政を推進するため、住民共有財産としての情報を公開するということで、住民の知る権利を具体的、制度的に保障するために条例によって制度化を図ろうとするものでございます。

その実施にあたっては、いろいろ諸問題を抱えておりまして、全国的にも数少ない状況で、本県におきましても実施している自治体はございませんが、そうした趣旨を踏まえながら、当市におきましては必要な情報を求められれば個人のプライバシーを除いた以外のものについてはその資料を提供しておりますし、市民から特に支障があるということも現在のところございません。したがって、現在のところでは特に制度として定める必要性はないと考えております。

次に、企画費に関連いたしまして、基本構想の策定についての御質問でございますが、地方自治法に基づいて昭和49年に策定いたしました基本構想が最終目標年次の昭和60年を控えまして、本年度はこれら実績の見直しをしながら、長期計画の準備の年として作業計画に入ってまいりたいと考えております。

したがって、これから具体的な策定作業となるわけでございますが、計画策定に当たっては、1 現況分析を十分行うこと、2 現実に即した適切な目標を定めること、3 市町村の果たすべき役割を明確に把握すること、4 計画策定過程において住民の意思を十分反映させること、5 国、県等の計画との整合性に留意すること、6 計画策定における庁内体制の確立を図ること、等々基本的な事柄に十分留意すると同時に、現総合計画による達成度、あるいは今後の課題等も新総合計画では大きな参考要件となるものと存じます。

なお、現総合計画である基本構想、基本計画の将来指標の達成状況でございますが、49年の策定時点で第1次オイルショック等の経済的変動がありました。生活部門であります上水道、し尿、ごみ、道路舗装、住宅、公園等については、下水道を除いてほぼ目標を達しており、教育文化部門、産業経済部門においても目標年次にはおおむね将来指標に達するものと思われまゝ。

したがいまして、これらの状況を踏まえながら、21世紀に向けて効率的、効果的な計画行政の推進を初め、恵まれた自然環境の保全を図りながら、地域活性化のための具体策を市民各層の英知を結集していただきながら、新たな計画策定に入ってまいりたいと考えております。

次に、電子計算機費委託料に関連しまして、市民のプライバシー保護は万全かという御質問でございますが、地方公務員の職務上知り得た守秘義務については、地方公務員法に定められております。本市におきましては電算機により事務処理を行う場合、特にデータの漏洩、滅失、棄損等を防止し、データの保護管理を的確に行い、合わせてプライバシー侵害に対する住民の不安を除去するために、ディスプレイ装置の設置課職員に対し、取扱責任者及び取扱者に辞令を用いて専任させるとともに暗唱番号を与え、その万全を期しております。

また、外部委託業務については、契約条項に機密の保持を設け、データの保護、プライバシーの保護について管理者の注意をもって誠実に履行させております。

青少年相談員連絡協議会補助金について、関連しての御質問でございますが、現在、市と青少年相談員連絡協議会の主催による行事につきましては、参加者については市がレクリエーション保険に加入しております。

御質問の青少年相談員地区活動による保険につきましては、各地区事業ごとに加入しており、この経費は個人負担ではなく青少年相談員地区活動費から支出しております。

なお、参加者の事故補償に関しましては、その充実について検討してまいりたいと思ひます。

○議長（石井 正君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。



午前 11時55分 休憩

午後 1時02分 再開

○議長（石井 正君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑を再開いたします。

○1番（神田守隆君） 何点かについて再質問させていただきます。

まず、第1は、児童福祉施設の負担金に関する問題で、いわゆる国の超過負担の問題ですが、この予算の中では9700万という文字どおり1億に近いような大きな超過負担が出てくるということで、これは大変なことだろうと思うんです。本来、保育所の運営費の負担というのは10分の8国が行う、市が負担するのは10分の1、県が10分の1ということで、費用の負担があるわけですが、現実にはこうした形で大変に市の方に超過負担が多くなっているということで、大変に残念なことだと思うわけです。

こうした超過負担を生んでいる要因として、昨日の論議の中にもありました、定員との兼ね合いでの充足率といいますか、措置率といいますか、それが定員に対して低いということから、国は実際の実人員に対してしか措置をしてこないというようなことから、超過負担が生まれてくるんだというふうに思うわけです。ということは、逆に言いますと、超過負担をなくしていくには、充足率が高まれば、定員に対する措置率が高まれば、その分市のいわゆる超過負担も減っていくんだというふうに思うわけです。

そういうところから、出生児童数の減少とかいろいろな問題もあるわけですが、同時に保育所になかなか入ろうと思ってもまず高いという問題とか、あるいは時間との兼ね合いとか、さらに——最近はやっといろいろお話を聞く機会もあるんですが、保育に欠けるということの認定の問題、なかなか国からもやかましくなってきたというふうな、指導の面で大変やかましくなってきたというふうな話も伺っているわけです。

そこで、高い問題については、これまで私も何度か御指摘をしてきたわけですが、保育園の保育料を安くして結果的に児童数が増えれば市の負担は少なくなるということも考えなきゃならぬではないだろうかというような指摘をしてきましたが、きょうは、保育に欠けるという認定の問題でひとつはっきりさせていただきたいのは、保育に欠ける認定の権限はだれに

あるのかということです。国から何だかんだ言うわけですがけれども、この権限は私は市長さんにあるというふうに理解しているんですが、この点についてお聞かせを願いたいと思います。

次に、寄附金については、59年度から市道の負担は全廃するというようなお話で、これは昨日、県道の負担金の問題も関連してお話しましたが、大変にこういうふうに住民への負担を軽減するという点については評価をいたします。今後さらに消防に関する寄附、あるいは側溝に関する住民負担について、今後とも一層の配慮をするべきだという点で、その点を主張しておきます。

それから、防犯灯の新設の問題ですが、全必要個所を一斉調査を行ったその結果やるんだということですが、ということは、新年度の中では防犯灯はすべて基本的には終わる、したがって新年度の翌年度からはもう要らないということで予算が大幅に減るということも想定しなきゃならぬのではなかろうかというような感を持つわけで、早くやるというのは非常にいいことなんですが、同時に一斉調査の結果漏れるというようなこともあろうかと思うんですが、そういう点についてやはりこれでやったんだからおしまいだというような考え方に立つのか。さらに今後とも必要個所の調査等については住民要望があれば配慮していくということなのかお聞かせいただきたいと思います。

それから、文書の広報費に関する情報公開の問題については、また別の機会に譲りたいと思います。

それから、基本構想の関係の問題ではありますが、これも今後の大きな市政の課題だという点では御指摘をして、当面一応作業計画に入っていくということで、作業計画に当たっての留意点を6点にわたって述べられましたが、こうした点を踏まえて今後とも進めていっていただきたいと思います。また、私どももこういった問題については十分な関心を持って今後議論もしていきたいと考えております。

それから、電算機の問題については、一応質問は打ち切ります。

それから、青少年相談員の連絡協議会補助金ですが、先ほどの市長さんの御答弁では、地区の問題については、地区の活動については地区活動費から出ているというようなお話で、市で負担をしているような受けとめ方

の御答弁があったんですが、私が理解しているのはそうではなくて自己負担だというような形になっておるといふように話を伺っておるんですが、事実関係の問題ですから、大変、今後再調査をしていただいて、私の方が間違っているのか、市長さんの方が誤解があったのか明らかにしていただきたいというふうに思います。

◎民生部長（鈴木 力君） 保育所の入所希望者に対する、入所措置に対する許可権限と申しますか、これにつきましては児童福祉法の24条におきまして、市町村長は、保護者の労働または疾病等の事由により、その監護すべき乳児または幼児が保育に欠けると認めるときは、それらの児童を保育所に入所させて保育しなければならないということでございまして、したがって市町村長に権限がある、ということでございます。

次に、防犯灯の設置の関係でございますけれども、59年度におきましては——いままで毎年大体80灯前後、各地区の防犯協力会が要望を出しまして、それを市の防犯協力会が調整しまして、市が助成しまして、各地区ごとにやっておったわけでございまして、これを59年度は市域全体を点検していただきまして、設置の必要のあるところは一斉にひとつ思い切って設置しよう、ということでございまして、したがって60年以降はひとつこれは地区の防犯協力会にそれぞれ措置をしていただくということでございますけれども、これに対しては東電あたりが毎年10灯程度寄贈があるわけでございます。それから毎年度地区におきましてもそれぞれ自主的に設置をされておるのが約10灯程度あるわけでございます。そういうことから特にどうしても設置を必要とする個所についてはまた市といたしましては補助金等考えなくちゃいけないわけですが、原則的には60年度以後は各地区の防犯協力会で御心配していただく、御配慮いただく、こういう考え方でございます。

それから、青少年相談員の地区活動の中で、事故のあった場合の補償に対する保険でございますけれども、これにつきましては現在館山市と青少年相談員連絡協議会の主催によりまして行います行事に対しましては、これはいわゆるレクリエーション保険へ入って、この保険が適用されるわけでございます。

なお、地区におきましても、いわゆる青少年活動として行います行事に

対する保険はこの保険に入るわけでございます。この保険というのは行事一つ一つが、1日だけの保険でございますから、これも地区で行う活動についてもこの保険に……。

なお、保険料については、市の方から青少年相談員連絡協議会に対する補助金の中で賄っていただく、こういうことでやっておるわけでございます。

それから、なお子供会の方でもこれに対する保険やっているわけですが、そんなわけでございまして、今後なおボランティア保険ですか、こういうことも合わせて検討してまいりたいと考えております。

◎1番(神田守隆君) 一応質問はこの一つで終わりますが、今後防犯灯については原則的に地区でやってくれというようなお話で、そういう考え方で進めたんでしょうけれども、そうは言ってもかなり1年経ってみないとわかりませんから、その点でもひとつ配慮をお願いしたいという点で――なかなか住民の中では、こういう意見を御紹介しておきたいんですが、城山は大変こうこうと照って明るい、だけれども、おらのうちの足元は真っ暗でかなわないというような、そういう住民の感情、気持ち、これをやはりひとつわかっていただきたいというように思います。

以上で終わります。

◎議長(石井 正君) 以上で1番議員君の質疑を終わります。

次、27番議員安西益男君。御登壇願います。

(27番議員安西益男君登壇)

◎27番(安西益男君) それでは通告してございます4点につきましてお伺いたします。

最初に、各款の12節役務費のし尿浄化槽手数料及び13節の委託費のし尿浄化槽維持管理委託料でございます。

次は、91ページ28節繰出金でと畜場の特別会計についてでございます。

95ページ11節の需用費で汚泥焼却用の燃料費並びに機械等の修繕費についてであります。

もう1点は、117ページの港湾費で16節原材料費の棧橋補修工事材料費でございます。

まず、各款にわたる公共施設の浄化槽の手数料並びに委託料についてでございますが、予算書にはすでに計上されておるわけでございます。これは従来どおり計上されておりますが、民間に委託した場合に、先日のお話ですと50%開きがある、こういうことでございますので、この調整はどのようにされていくのか、その点が1点。

また、浄化槽処理関係の職員が2名おるわけでございますが、この2名の配置はどうか。

さらに、また保全公社は県の指導要綱に基づきまして実施しておるわけでございますが、民間に委託された場合に維持管理、点検は指導要綱どおりに実施されるかどうか、この点が1点。現状でははなはだ不可能ではないかという危惧がするわけですが、その点確認をされておるかどうか。市内の官庁、学校、高等学校等、こういった点で実際そのようにされていないということが私の調査ではなっておりますが、この点はどんなふうに見ていきますか。したがって、民間契約の場合、契約する場合に契約書なり誓約書なり、そういったものを取り交わすのかどうか。そして、また保全公社で現在行っておりますそういった方式が取れるのかどうか。その点をしかとお聞かせいただきたい。

次に、91ページと畜場の特別会計繰出金、これは毎年行われておるわけでございますが、聞くところによりますと今後の運営についていろいろ問題があるんじゃないかというふうに聞いておりますが、この点の内容等につきましてお聞かせいただきたい。

続きまして、95ページ、これは新しくできました——もう2、3年経ちますけれども、し尿処理場の汚泥焼却用の燃料費が3100何がしと大変な高額が示されております。当初そのような記憶がありませんので、これはどんなふうに使われておりますか。

いま1点は、機械の修繕というふうになりますが、年数まだ新しいわけでございますから、どのような個所が故障されたかどうか。

最後に、1点は117ページでございますが、これは棧橋の補修工事の材料費ということでございますが、棧橋の件につきましては通告質問等で館山棧橋の危険箇所、いわゆる先端の残骸等の処置はどのようにするかということでは、重々検討されるということでございますので、検討されて、

その結果どういうふうに補修を考えておられるかということにつきましてお伺いしたい。

以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 安西議員の御質問にお答えをいたします。

まず、し尿浄化槽清掃手数料及び維持管理委託料についての御質問でございますが、昭和59年度予算において一般会計、特別会計を含めて計上したし尿浄化槽清掃手数料は34カ所で約500万円、維持管理委託料は約330万円、合わせて830万円ほどで、単価は昭和58年度と同額でございます。

維持管理及び清掃を58年度同様、館山市環境保全公社と随意契約する場合、昭和59年度新規2カ所を除く32カ所で約1160万円ほどと公社では試算しているわけでございます。

公社と他の民間業者との比較につきましては、個々の浄化槽により差異がありますので、一概には決められませんが、いずれにしても入札または見積もり合わせにより契約した方が財政的に有効であると考えているわけでございます。

浄化槽担当の公社の職員は2名でやっておりましたが、現在1名欠員になっております。

また、民間委託では不安だと、それに対する指導監督はどうするのかという御質問でございましたが、これは保健所の指導監督を受けているわけでございますので、その作業につきまして御心配のようなことはないというふうに考えております。

次に、と畜場の今後の運営の見通しという御質問でございますが、市営と畜場の経営につきましては鋭意努力を重ねてまいりましたが、と殺頭数が年々減少し、赤字経営を余儀なくされております。加えて施設の老朽化が進み、市営と畜場として維持していくことがきわめて困難な状況になってまいりました。しかし、また利用者である酪農団体からは緊急と畜場として必要があるのでは何とか存続してほしいとの強い要望もあるわけでございます。

市といたしましては、利用者である生産者が安房郡市全域に及んでいる

こと、そして生産地別のと殺頭数は市外の方がはるかに多いことなどから、安房地区の酪農振興のためにどうしても必要な施設であるというならば、それぞれの市町村に対し広域の施設として存続を求める働きかけをなすべきであるということを酪農団体に申し入れをしております。

次に、汚泥焼却用燃料費並びに機械等修繕料についての御質問でございますが、まず汚泥焼却用燃料費についてお答えをいたします。衛生センターで発生する汚泥等には、前処理工程で除去された水分60%の夾雑物約1.5立米と、脱水工程で除去された水分82%の汚濁物質5立米があり、毎日これを焼却処分いたしております。燃料費は年間約2000立米の汚泥焼却用として衛生センター設計時の所要数量でございます。

次に、機械等修繕料につきましてお答えをいたします。施設の機器の保全には日常の点検が十分になされなければなりません。施設職員による整備は当然であります。主要機器については専門メーカーによる定期点検を毎年確実に実施することにより未然の事故防止並びに維持経費の節減を図ろうとするものであります。予算科目は修繕料でございますが、単に故障による修理だけをいうものではございません。

次に、港湾費16節の原材料費についての御質問でございますが、この原材料費につきましては、棧橋補修と合わせて館山棧橋の地覆設置をしたいと考えております。

また、先端の腐食した橋脚の取り除きにつきましては、国、県に問い合わせをいたしました。大型工作船の館山港への入港予定は現在のところございませんので、その情報を得た時点で対応をしたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎27番（安西益男君） コストの件でございますけれども、先ほど申し上げましたように計上されている手数料、委託料、これは従来どおり、昨年に同じということでございまして、説明ですと50%ではないか、半額であるということでございますから、当然この額は半額というふうに、市としてはそういった方向でこの点については考えておられるかどうか。

安くなるということについては、いわゆる人件費が主なもので2名ということで、1名で大体済むんじゃないか。1.2か3。ですから、人件費、大体そういう1名につきまして、大体400万近くになるわけです。そう

すると大した大きな開きはなくなってくる。そういった点の当局の考え方、そこにやはり問題があるんじゃないか。先だって、一般質問でも申し上げましたように、2名がフルに動いている、作業をしているということではないんで、実際に1.2か1.3の割合で済むということでございますから、そういった点の算出の組み方がちょっと納得できないという面があるわけです。

それから、2名の配置ですけれども、一般くみ取りの方は24名というような、確かに1名欠員ございますから、あと1名の配置はこれは正式にはどんなふうになっていきますか、その点。

それから、県の指導要綱に基づいて保全公社ではやっておるようでございます。浄化槽によっては民間委託をやっておるところもございます。あるいはそれぞれ方式によって違うところもございますけれども、いずれにしても先だってお話のように年間1100回くらいですか、の点検をしているということでございますから、仮にこれが民間に移管された場合には不可能だということがあえて言えるんじゃないか。市内で私が知っている範囲のところを調べました。まことに2月に1遍とか3月に1遍とかなされてはいますが、ですからそのとおりには絶対にできない。そういった見通しもつけられての判断かどうか、その点をお聞かせいただきたい。

そういったことを、まず、いまの点だけちょっとお聞かせください。

◎総務部長（鶴岡卓樹君） 予算のことについてお答え申し上げます。

前年保全公社にし尿浄化槽の手数料といたしまして760万何がしでお願いしておりました。それを1160何万でお願いしたい、そういうことなものですから、私の方は単価——市長が御答弁申し上げましたように極端に高くなる。そういうことで財政見地から考えまして民間等入れまして契約なり見積もり合わせでお願いしたい、そういうことで予算計上してございます。

◎民生部長（鈴木 力君） 浄化槽の維持管理に当たる上で人数の問題ですけれども、2人のうち1人は——先ほど市長から申し上げましたように現在欠員が1名です。そういう関係であとの1名につきましては、現在まで公社におきましてはけがとか病気によりまして、そのために臨時職員を雇用する期間が非常に長いわけでございまして、そういうけがや病気は困



るわけですが、それからなお土曜日の午後も就業という問題がありますので、そういう問題をなくすようにいたしたい。いわゆる臨時職員の代わりに充てるといふことと、なるべく時間外勤務をなくすようなことでその1名を充てていく、このように考えております。

それから、民間許可業者による場合の維持管理の方法、内容等についてということでございますけれども、これにつきましては浄化槽は管理基準というものがございまして、浄化槽の正常な機能を維持し、放流水の適正な水質を確保するために廃棄物処理法施行規則第4条の第3項に規定する維持管理の基準によるほか、千葉県のいわゆる維持管理基準による、ということございまして、保守点検についてはそれぞれ単独処理の場合、あるいは合併処理の場合、あるいは人槽によってそれぞれ点検回数、清掃回数というものが決められていくわけございまして、民間におきましてその基準というものは維持されて適正に処理されておられる、こういうふうに考えております。

◎27番(安西益男君) あくまでも半額——計上されたその半額で済むということですから、これはちょっとわからない。予算が出過ぎているということ。

それと、維持管理ということ。民生部長のお話ですと、多分規則あるいは基準に沿って民間もやっておるだろうということですが、市内でそういったことはお調べになったことはありましようか。きちんとやっているかどうか、公社並みにやっているかどうかという、そういった基準に沿ってやっているかどうかということを確認したことがありますか。

◎民生部長(鈴木 力君) 民間許可業者におきましてもただいま申し上げましたとおり当然県の基準、あるいは処理法による基準に基づいてやっていたらというふうに考えておるわけございまして、この浄化槽の維持管理につきましては県の法定検査というものを毎年1回受けるようになっておりまして、その検査の結果を保健所の方から取り寄せまして内容を見ますと、館山市におきましてはいわゆる検査の結果、適正だったというものが58年度におきましては総体の67%、なおやや適正というのが31%でございました。それから不適正というのがわずかに2%でございました。

このようなことでございまして、おおむねこの法定検査の結果によりますれば総体の98%というものが合格しているんだ、こういうことでございまして、この法定検査の結果の上から見ましても、民間業者の方におきましても一応適正な維持管理を実施されておる、このように考えておるわけでございます。

○議長（石井 正君） 申し上げます。質問3回ですから、あと一括して聞いてください。

○27番（安西益男君） 確実な回答がないと3回で終わりませんよ。

確認してもらいたいということと、十分に調べて——そうされてない。回数が公社どおりにやられるかどうかということ。

それと、検査の結果は出ておるんですね、基準どおり、規格どおりの回数によって行われているかどうか、その点をひとつ。公社並みに——委託する場合に年間かなりの、1000何百回やっておりますから、そういった方式で、そういった計画でやれるのかどうか。またそういった計画に基づいてやる場合に、こういうふうにやりなさいというふうな計画をされたのかどうか。そういった点をもう一遍確認したいというように思うわけです。

いずれにしても、保健所から各市町村等に指示といいますか、依頼といいますか、そういったことが来ていると思いますが、保健所だけじゃ全部を管理をするのはとてもできませんから、各市町村にそういうふうな依頼があると思うんですが、そういったものは来ていないのか。

それと投入手数料、これが館山市の場合はかなりのウェートを占めているわけですから、他市並みに——負担を市でしているところが多いわけですから、これがなければ値上げをしなくて済むということになりますけれども、それももう一遍確認していただきたいと思うわけでございます。

この場合は、浄化槽について1名とちょっとということで済むわけですから、かなりの開きができてきますから、そういった点これはなされないかどうか。いまいろいろとお伺いした際に、最終的には市長の確認の上に入札の結果に基づいて契約にしても決められると思いますので、これはひとつ特に実行していただくようお願いしたいわけでございます。

それから、と畜場の今後の運営については、確かに頭数減ってきており

ますから、ということは市単独では無理ということが認識できるわけです。そういったことで他の広域圏内に呼びかけて負担金を出させる方法はないかどうか。せっかくあるものをなくすのではなくて、広域圏内の市町村でかなりの業者が使用していますから、町村に呼びかけて負担金等の支出はできないかどうか。そういう話し合いをしたかどうかお伺いをしたいわけであります。

それから、焼却場のこれは先ほどの回答でよくわかりました。

それから、実際に棧橋の補修の件ですけれども、大型船が入ったときということで漠然としているわけですが、そういう機会をなるべく早くとらえて、かねがね要望している補修等を実現の方向に向かって進めていただきたいということを要望しておきます。

○民生部長（鈴木 力君） と畜場の運営の問題でございますけれども、御指摘のように利用者が確かに安房郡市全般的でございますので、この件につきましては広域市町村圏事務組合を通しまして各市町村の担当職員、担当課長含めましての趣旨の説明という形でもって従来から話を進めておるところでございます。（「その結果はどうですか、話し合いの結果。」と呼ぶ者あり）もちろん理事者じゃございませんで、担当課長を通しての働きかけということでございますので、結論的なものはまとめてございません。

○議長（石井 正君） 以上で27番議員君の質疑を終わります。

次、4番議員日下君敏君。御登壇願います。

（4番議員日下君敏君登壇）

○4番（日下君敏君） 私は、すでに通告してございます点についていささかお聞きしたいと思うものでございますが、細かい事項につきましてはただいま各議員の方々が行っておりますし、なお特別委員会、その他の委員会で数字等々につきましては細かな御審議がなされるものと思いますので、今回はひとつ本年度の館山市の予算に関しまして市長のいささかの御意見なりを伺いたいと存ずるものでございます。

本年度の館山市の一般会計当初予算が95億8000万円、特別会計50億6000万円、トータルで146億4000万円でございます。対前年度比一般会計でマイナス6.5%、特別会計プラス8%、差し引きマイ

ナス2%という予算でございますが、一言で申しまして、この財政難の中でなかなか御苦心をした策であるということで率直に評価いたすものでございます。と申しますのは、現在国会で審議しております国の予算が一般当初で50兆6000億円で、前年度比が0.5%増、千葉県が7876億1000万円、対前年度増3.5%でございます。いずれも超緊縮財政再建という予算で組んでございますが、千葉県などは財政調整基金を100億取りつぶしての予算編成でございます。しかし、両予算ともプラスになっているわけでございますが、館山市はコミュニティや衛生センター等大型プロジェクトが終わったとは言え、国の方針に沿ってさらにマイナス予算を組んでおるということは先ほど評価したとおりでございます。

この予算を見てみまして、概括的に一言で申し上げますと、やはり先ほど来、先日来御審議しておりますように、各種公共料金の値上げということが一番目立つわけでございます。この公共料金につきましては、値上げということになりますとどうしても感情論が入ってまいりまして、とにかく値上げという反対だということは各種請願が出ておることからもそういうことではございますが、私はこの値上げそのものが全くいかなぬと、反対だということではないんでありますが、ぜひともこのしっかりした理論づけと現実の裏づけをもって御説明いただければ、まあまあ仕方がない部面もあるのではないかなというふうに思うわけでございます。

親が子供を甘やかして甘いものばかり食べさせますと虫歯になって、しまいは病気になります。病気になりそう、あるいはなった場合はどうしても薬を飲まなくちゃいけませんで、そうなりますと良薬は口に苦しいうことでございますから、あるときは薬も飲まなくてはならぬだろう、そういう場面も来るだろうというふうには思うわけでございます。しかし、先ほど申しましたように何としても公共料金の値上げということになりますと、値上げということだけで市民感情的にはアレルギーが生じるわけではございますので、ひとつこの公共料金——今回はし尿処理、それに幼稚園の料金でございますが、関連としまして学校給食も今年度上がります。さらに近い将来には水道料金も当然これ日程に上がってくるわけでございますから、今年度は公共料金が相当値上がってくるということでございます。

ひとつこの公共料金について半澤市長がいかなる基本的な考え方を持っ

ておるのか、まずその点につきまして御質問いたしまして、御答弁をいただいた上、また再質問をさせていただくことにいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 日下議員の御質問にお答えをいたします。

公共料金に対する市長の姿勢ということでございますが、地方財政運営の基本的な考え方といたしましては、長期的に見て収支の均衡を保ち、多様化、増大化する住民の行政需要に対処しながら、地方財政法第2条で定める「国の政策に反し、又は国の財政若しくは他の地方公共団体の財政に累を及ぼすような施策を行ってはならない」という地方財政運営の基本を踏まえながら、財政基盤の確立と地域社会の発展に寄与することにあると考えております。

使用料、手数料につきましては、従来から受益の限度におきまして応分の負担をお願いしてまいりましたが、今後とも財政事情と国等で示す基準を勘案し、住民の公平に配慮し、適正化を図ってまいりたいと考えております。

幼稚園の保育料、入園料につきましては、議案の提案理由で申し述べましたが、従来から行ってきたとおり今回も国で示す公立幼稚園運営のための基準に合わせまして改定し、設備内容の整備、改善を図ろうとするものでございます。

○4番(日下君敏君) 館山市そのものも地方公共団体でございますので、ただいま御答弁のように国の方からはそういった法律なり、条項なりが当然来ていると思うわけです。それにのっとって行政を担当するということに相なろうと思います。今年度は地方財政計画でも1兆5000億の不足が生じる、その分は地方債なり、使用料、手数料等々上げなさいという指導でございますので、それに基づいて当然行われてきておるんだろうと思うわけでございます。

いまの御答弁で、やはり受益者負担ということも、やはりこれも仕方がない面もあるんじゃないかと思うわけでございます。ただ、しかし受益者負担、受益者負担でこられますと、どうしても値上げということになりますと財布が痛めつけられますんで、もう少し何とかならないかということになるわけでございます。地方行政そのものが国の方針に、3割の自治と

いうように押さえられているということもわかるんですが、ひとつ受益者負担以外に何か方法はないのか。各市長でございますので、何かほかの方法が、時期をずらすなり、あるいは値上げをもう少し幅について考えるなり、等々の何か方法がないのか。あるいはさらに突っ込んで値上げそのものについて再考する余地はないのかというようなところをお聞きしたいと思うわけでございます。

この値上げということにつきましては、一体上げるのか、上げないのかということが、究極的には館山市の行政を担当いたします市長の基本的な姿勢でございましょうから、本来われわれが上げた方がいいのか、上げない方がいいのかということでくちばしを入れるべき筋合いじゃないような気がいたしますが、基本的な問題ではございますが、受益者負担以外の方法論があれば、あるいは再考する余地がないかということを経理さんにお聞きいたしたいと思うわけでございます。

それと、一つ総務部長にお聞きしたいんですが、われわれ素人考え——財政についての素人あるいは一般市民の考えとしまして、今年度の館山市の予算はほぼ推計で4億5000万円の黒字決算をする予定になっており、このうち2億5000万円を財調基金に繰り入れて、なお2億円の剰余金が予想される。さらにただいまから審議しております今年度の予算では6000万円の利子相当額を財政基金に繰り入れる、積み立てるということでございますので、われわれ素人といたしますとひとつそれは何とかならないかと、こういうふうに思うわけでございます。

ただいまの、今回の値上げになります幼稚園、これの保育料と入園料の増収が300万でございます。われわれから見ますと95億の中の300万になりますと、われわれの感覚ではその数字から言えばたかが300万という感じがするわけです。これは何とかならないかなと、こう思うわけでございますが、財政を担当する専門家とすればたかがじゃない、これはもうされど300万なんだと、財政バランス、財政のけじめという面からいくとこの300万は小さな300万じゃないんだよというような専門的な御意見もあろうかと思えます。われわれの感覚ではさっきも言いましたような財政基金なり利子等々でひとつそういった補てんなりが幼稚園等々でできないかという庶民的な考え方があるわけでございますが、専門家と

してそうはいかぬのだという面があればひとつわかるように御説明願いたいと思うわけでございます。

それと、教育委員会の会長さんにお聞きしたいんですが、幼稚園に通っております子供を持つ親は若い方が多いわけでございますので、当然収入的にも1代上、2代上の父兄に比べれば収入も不安定であろう、そうなるこのような値上げということになりますと財布に直接響くということでございますから、ひとつ当然PRをしていただいて、これこれこういう事情で上げるんだということでPRをしてもらうということに相なろうと思うんですが、どのような方法で広報宣伝活動をしていただけるのかお聞きいたしたいと存ずるわけでございます。

ただ、きのうの答弁でちょっとひっかかりましたんで、この辺をはっきりしておきたいんですが、きのうの教育長の御発言、御答弁は、幼稚園が全国にあって公立が30%、私立が70%である、したがって幼稚園の保育料、その他が安い、高いはこの量の多い私立との比較で考えるのが妥当ではなかろうかと、たとえば私——私というのは教育長なんですが——私の知っております幼稚園では入園料が4万円、設備として3万円、月謝9000円というようなことになっている、こういうようなところから比べると今回の入園料、その他は安いのではないかというような御答弁をいたしたように私理解しておるんですが、もしこういうことで宣伝というか、PRをされるとちょっと的が違うんじゃないかと思うんです。

いまの教育長の答えでいきますと、そうすると大学は公立と私立と比べると私立がいっぱいある。そうすると私立の入学料の方が公立よりも高い。高い、安いを私立の方で比べるということはおかしいんで、やはり公立は公立、私立は私立で比較するというのが私は当然だと思うんです。ですから、宣伝する場合はそういうような宣伝はまずいんじゃないかと、こういうふうに思うわけでございますので、ひとつその点を含めて御答弁をいただければと思います。

○市長（半澤良一君） 今回の各種料金の値上げについて、再考の余地がないかという御質問でございますが、私もいたずらに市民に負担を求めるのはやぶさかではない——表現が悪いですが、負担を求めることは心よしとしないところですが、現在の財政状況を考え、しかも増大する各種の

市民のニーズをそれぞれ満たしていくためには、受益の限度においてやはりそれぞれ負担をしていただくのが正しいんじゃないか。それが負担の公平でもあり、またそれによってその事業を行うための財源、あるいは財政を執行する上での財源の確保ができるんだ、そういうふうに考えているところでございます。そういう意味で十分慎重に考えた上で御提案申し上げたわけでございますので、御理解願いたいと思うわけでございます。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 財政調整基金と公共料金の兼ね合いという感じでむずかしい御質問の内容だと思いますが、御案内のように当市も地方自治法なり財政法に基づきまして館山市財政調整基金条例というのが制定されております。その中で目的なり基金の処分がございます。

その必要性と額につきましては、本来財政の持つ単年度主義といいますか、単年度でものごとを終わる、そういうことと財政の計画性といいますか、その辺の問題で財政活動におけるバランスをどうとるか、そういう考え方ができます。

今回、出ている財調の質問につきましては、その都度市長が御答弁申し上げますが、要は当財政を収支——年間の財政の収支がどうだろうか。これは形の収支もございすし、実質的な内容の議論はもちろんのことです。一番大事なものは当市が抱えております財政の構造要因はどういうところにあるだろうか。そういうことでむずかしい問題なんです。経費の構造、たとえば性質別——使われているお金がたとえば人件費なり生活扶助なり社会保障費にどう使われているか、起債の元利償還金はどうなっているのか、そういうことで経費の当市の持つ構造にやはり目を向けていただきたい。

それと、収入の構造といいますか、今議会でいろいろお話がございました財政力指数、当市は28市の中で市長は20番目ですと、そう答えてございます。そういうことで財政の力はどうか。それと標準財政規模といいます、これも話題になりましたが、経常的な一般財源——交付税なり税、そういうものはどうであるか。当市の場合は力がなくて規模も小さい。そういうことで考えますと行政範囲が絞られるといいますか、枠がおのずと浮かび上がってくる。そういうこともお考えいただきたいと思います。



もう一つ、収入と使っている構造がどうなっているか、その収支がどうかといいますと、経常収支比率というちょっと皆さんなじみない言い方で呼ばれていますが、税等経常的なお金がどういう方面に使われていると、その比率はどうだろう、そういう内容分析といいますか、財調の運営からは当市が持つ財政の構造的なものを体していただきたい。

それと、かねがね話題になっております将来の行政需要、市の持つ財政の構造的なものを勘案して、市長が申し上げておりますように行政の健全性保持ということを考えまして10億の額がいま現在考えられております。

今回の公共料金の御質問に入りますが、行財政運営、特に財政秩序から考えますと、公共料金はコスト主義でございます。そういうことではございしますが、国の指導基準まではその受益があるものですから費用を御負担願いたい、そういうことでお願いしております。

○教育長（安田豊作君） 幼稚園保育料の問題について、親へのPRをとということでございしますが、今度お願いしております値上げについての直接影響を受ける対象者は4歳児の父兄でございます。現在幼稚園にいる子供は影響を受けないわけで、これを影響を受けるのはいま願書を出してきている父兄でございます。

ですから、親たちへのPRについては今度願書を取りに来ますその際に、額は申しませんけれども、値上げの考えを持っておりますということで確認をとるとともに、入園許可の場合にこの議会が済んでおればその結果をお知らせしたい、こう思っております。

なお、こういう問題はそういう一人一人のあれではいけませんので、父兄全体を、4月になりますけれども早い機会に集めてお話をするし、同時に先だって質問もありました就園奨励補助の問題についてもお話をするべく、こういう手続きを考えております。

なお、一般的には校長会といいますか、幼稚園長会を開いてじっくりこの問題についてはお話をし、PTAの役員段階までは了解を得ております。

それから、きのうの私の答弁について、私立との比較はどうも間違っていないか、こういうようなお話ですが、確かに親の立場に立てば——個々の親の立場ですね、いま入園の子供を持っているその親にとれば値上げをしてもらわない方がいいという立場に立つと思います。

私が私立との比較というのは、もう少し広い立場——端的に言うとな市の立場といいますか、市の幼稚園を経営する立場で、これは同時に館山市民全体の立場という立場がとれると思うわけでございます。というのは、今度お願いしてあります、幼稚園費としてお願いしてあるのは2億2000万でございますけれども、2億2000万の90%は人件費、あとの10%が物件費、こういう構造を持っているわけでございまして、この予算を減らすという段階になるとこれは大変な問題になって、学級が減って希望した子供が収容できないという事態になるわけで、ただそのときに、日下議員さんもおっしゃったように館山市において300万ぐらいはどうかなるんじゃないか、この理論がもし成り立つとすれば9億5000万のうち300万は小さいじゃないか、そのくらい父兄のめんどろを見てやってもいいじゃないかという理論が通れば上げなくても済むと思います。

先だってから問題になっている安房郡市内、館山市周辺の町村が1000円とか1500円で過ぎているという理屈はここです。これは各市町村で議員の皆さんがやるか、父兄がやるか知らないけれども、町長、町当局に泣きついて上げても、館山市で300万ぐらいですからそこらでは何10万という金額なんです。何10万という金額ならみんなの喜ぶ方がいいじゃないかというのがどうもまかり通っている、というのが私どもの教育長会でいろいろ話し合っている内容のようです。

しかし、私はもう少し広い立場——こういうふうにしていきたいというのが、現在の館山市の幼児教育の、希望者全員収容して幼稚園教育が進められているというこの体制は続けさせていただきたいというのが、それには受益者は応分の負担が増えてもがまんしていただけないものか、この理解をいただきたいというのが私の考えでございます。

ちなみに、これはさっき国の関係を見ましても、こういうことになっているんですよ。幼児教育は幼稚園と市立保育所でやっていると言いますけれども、全国的に見て240万の子供が幼稚園——公私立です。公私立両方で240万人います。これが国の投資は450億です。それから保育所公立、私立ありますけれども、この保育所に通っている幼児が210万、それに対して3600億の国が金を出しております。ここにすでに幼稚園と保育所との格差が大きくあるわけであります。その大きくある格差が、

さらに私立幼稚園と公立幼稚園との差が先ほど申し上げたように3対7—7割は私立幼稚園で収容しているんだ、要するに対象児の7割はそういう高額なあれに甘んじているんだ、それを3割の4000円ぐらいの負担の公立幼稚園を館山市があえてここに行っているというこの姿を私は維持する方が住民のためになるんだ、それには先ほど申し上げましたように幾分の負担はがまんしていただけないものだろうかということを校長会でも、またPTAの父兄にもお願いしているところでございます。

○4番(日下君敏君) わかりました。

値上げというのは大変でございまして、先ほども申し上げましたようにどうしてもアレルギーになるんで、まあ市を担当いたします市長も値上げをしたくて上げたんじゃないだろうと思うんです。値上げをせざるを得ないというところで御提案なさっておると思うんでございますが、全部が全部値上げについて反対だということではなくて、私も街を歩いて、今回の値上げも仕方がないよというような声なき声も聞いております。ですから1万3000名もおりますが、逆に仕方がないという方もおるわけですから——賛成だという人はないと思いますが、値上げ賛成はないと思いますが、どうかひとつ仕方がないというレベルまでPRをしていただきたい、こう思うわけでございます。

幼稚園につきましても、52年から58年度までの投資額が5億3000万ほどもあるんだというようなことをひとつしっかりとあらゆる機会を通してPRをしていただきたい。このPRというものをこの間広辞苑を開いてみましたら、これは信頼と理解を高めるためにやるんだ、こういうことでございますので、宣伝を単にやるのではなくて、しっかりとした数字的な裏打ちをつけて信頼を得るようにひとつPRをしていただきたいということを要望いたしまして、終わらせていただきます。

○議長(石井 正君) 以上で通告者による質疑を終わります。

通告をしない議員で御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

ただいま議題となっております昭和59年度各会計予算につきましては、10人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会委員の選任につきましては、委員会条例第4条第1項の規定により、

1番議員 神田 守隆君	3番議員 山中金治郎君
7番議員 榎本 春光君	8番議員 小宮 利夫君
12番議員 石井 謀君	13番議員 石井 昌治君
16番議員 松下 正己君	19番議員 黒川 平治君
23番議員 伊賀 多朗君	24番議員 流山源次郎君

以上、10人を指名いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつてただいま指名いたしました10人の諸君を予算審査特別委員会委員に選任いたします。

ただいま選任されました予算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので御了承願ひます。

#### 会議日程の変更

○議長(石井 正君) この際、会議日程についてお諮りいたします。

明14日の会議日程は本日に引き続き昭和59年度各会計予算の審議となっておりますが、本日特別委員会に付託されましたので、明14日は休会といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて明14日の会議日程は変更され、休会と決定されました。

延 会 午後2時13分

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

せんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明14日から23日まで委員会での議案審査のため休会、次会は3月24日午前10時開会といたします。その議事は、議案第3号乃至議案第35号等に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 議案第3号乃至議案第10号
- 1 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任
- 1 会議日程の変更